

匹見地域協議会（第1回）会議次第

日時 令和元年6月26日（水）15:00～

場所 匹見タウンホール 集会ホール

出席者

（委員）藤谷 一剣・齋藤 惟人・大谷 文男・西川 友史・大久保純子
溝田 洋子・村上 巴・河本 亮・齋藤 光・齋藤 幸士

（益田市）山本市長

島田匹見総合支所長、藤井地域振興課長・田中地域振興課参事
梅津観光交流課長、齋藤分室長・藤本分室長

1. 開会

2. 辞令交付

3. 会長あいさつ

4. 市長あいさつ

5. 報告事項

（1）匹見峡温泉について〈資料1〉

6. 協議事項

（1）匹見豪雪山村開発総合センター耐震化事業について〈資料2〉

7. その他

次回開催 令和元年 月 日（ ） 時 分～

主催者名	匹見総合支所地域振興課
会議名	令和元年度 第1回 匹見地域協議会
開催日時	令和元年6月26日(水) 15時00分～17時00分
開催場所	益田市匹見タウンホール 集会ホール
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 匹見地域協議会委員 (8名) ・ 山本市長 ・ 匹見総合支所：島田支所長 地域振興課：藤井課長、田中参事 藤本補佐、佐々木補佐、斎藤補佐、宮野 ・ 観光交流課：梅津課長

【辞令交付】

- ・ 市長より各委員に辞令交付を行う。

【会長あいさつ】

合併後10年を経過し、さらに合併特例債の関係で地域協議会も合併後15年まで延長した。委員は全員留任し、1年という任期ではあるが、気持ちを新たにして匹見地域の諸問題について意見を賜りたい。

【市長あいさつ】

先程辞令交付をさせていただいた。引き続き皆さま方にはよろしくお願ひしたい。匹見地域には様々な課題があるが、特に匹見峡温泉や豪雪山村開発総合センターの耐震化について、こちらの方からの考え方を示し、ご意見を賜りたい。

【報告事項】

(1) 匹見峡温泉について <資料1 地域振興課参事より説明>

- ・ 指定管理者の公募について資料に沿って説明する
- 指定管理者については、匹見健康センターと匹見宿泊交流施設の2つの施設の設置条例に基づき公募を行う。応募は法人もしくはその他の団体、複数の企業から構成される共同団体という資格を設定している。

○公募は、7月1日から7月下旬まで期間を設定し、プレゼンを行い選考委員会で候補者が決まったら

議会に報告する。

○議会の議決があった場合、速やかに契約を行い令和6年3月31日までの指定管理期間とする。

○指定管理料については入浴者数35,000人、宿泊者数4,800人で試算するとともに、近隣の入浴料金

を勘案した料金の増、人員の見直し、水道光熱費や車両費等の見直しにより2,350万円という上限額

を算定した。

《質疑・意見》

●7月から公募を開始して応募が無かった場合どうするのか。

▷期間を延長して公募を続けたい。

●指定管理料の算定にレストパーク部分が入っていないが、レストパークはどのようにしていくのか。

▷本来であれば温泉に加え、現在直営で運営している中央公園・レストパークを含めた3施設を指定管理としたいが、一度に3施設を指定管理として公募するのは難しいと考える。まずは温泉を再開するため温泉だけの公募を行い、応募者との協議の中で他の2施設についても検討していきたい。

●夏には帰省や野球場の利用があるので温泉を早めに動かすことはできないか。

▷実際に動かすとなると人の関係や経費の問題があり難しいと考えている。

●今年度予算の修繕料3,000万円は何を優先的に行うのか。また、指定管理者が決まった場合に早期再開できるようなところは早く行ってほしい。

▷特に20数年以上経過している内湯のボイラー関係で予算化を図った。その他多くの修繕箇所があるので、できるだけ早く修繕ができるようにしていきたい。

●指定管理者をきちんと選定できるような体制を構築し、選定に取り組んで欲しい。

▷新たな指定管理者については企画書を提出していただき、それをしっかり審査していく。本庁と支所が一体となって取り組んでいく。

●平成31年度当初予算の指定管理料はどのようになっているのか。

▷レストパークと中央公園については直営で予算執行している。匹見峡温泉については(株)ひきみの業務整理の関係や先に施設修繕の必要があることから指定管理料の予算要求はしていないため、6月議会で予算要求している。

●町民の思いを汲んで温泉の早期再開を目指すのであれば当初から指定管理料を予算措置しておくべきだと思う。

●(株)ひきみは現在どうなっているのか。

▷河上副市長が名目上代表取締役社長となっているが、あくまで会社を清算する準備のためだけに機能している状態である。

●財源が無いから指定管理を続けられない、ということになってはいけない。匹見の財産を売るなど議論したことがあるのか。

▷指定管理料は他の指定管理業務とのバランスを見て積算している。匹見の財産を処分して管理料を上乗せしていくことは考えていない。また、財源の有無というのは事業を行う際には大きな判断材料となるが、匹見峡温泉の再開は匹見の重要な拠点という位置付けから必ず行うこととしている。

●公募はどういった形で行うのか。ホームページや広報だけでは難しいと思うが、どこかにアプローチをしているのか。

▷ホームページへの掲載と市民の方にも見てもらえるよう本庁や支所での閲覧による公募を行う。また、以前問い合わせのあった業者には公募の開始についてアプローチを行う。

●修繕の話があったが、リスク分担でそういった対応をしていくのか。

▷リスク分担ということで10万円以下の軽微な修繕については指定管理者でやっていただき、10万円以上の修繕については市が行なうという形での想定を考えている。

【協議事項】

(1) 匹見豪雪山村開発総合センター耐震化事業について <資料2 地域振興課斎藤補佐より説明>

○庁舎を含むタウンホール全体としてこの施設にどのような機能を持たせるか、あるいは他の公共施設の機能を集約できる可能性があるのかということ地域協議会の意見を頂きながら基本的な構想としてまとめ、以降の実施設設計に繋げていきたいということを昨年11月の地域協議会で説明した。

○公共施設については自治会館等を含めると膨大な量となるため、今回の事業では5つの施設について機能を明確に絞って構想をまとめていきたい。

○①匹見豪雪山村開発総合センターについては庁舎とタウンホールを利便性の高い施設として活用できるよう見直しを行いたい。集会ホールについては新規の施設を建設するということがあったが、センターの耐震化に合わせて改修することで利便性を高めていきたい。耐震工事としては、2階の便所裏に耐震補強壁の設置と屋上の屋根部材の補強工事を行う。2階の中会議室を1階に移すなど住民利用の利便性向上を図りたい。

○②匹見保健センターについて、現在行っている各種健診等での利用や歯科診療所、老人センターといった機能はそのまま維持する。また、バス通学児童の見守りやタウンホールと連携した事業展開の容易性や、住民の集いやすさという観点から匹見上公民館と図書館を移転することについて検討したい。

○③匹見上公民館については、機能を保健センターに移転することで、空き状態となりますので展示施設として機能を見直したいと考えている。そして保健センターにあるシルバー人材センター匹見連絡所をここに移転いただくことはどうかと考えている。現在展示されている世界のパズルや、木の器、索道等既存の資料展示に加え、匹見町内から出土した埋蔵文化財や、町内各地に分散保管されている民具等の集約・展示についても文化財課と協議したいと考えている。レストランについては引き続き維持することとしている。

○④匹見分庁舎・旧法務局については、現状は文化財課管理の出土物等の保管場所となっておりますので、これらの整理を行うことと、今後の利用の在り方について検討を続けたいと考えている。

- ⑤教員住宅について、学校近郊で比較的新しく修理や改修がほとんど必要ない教員住宅が、岡本地区で3棟、正下地地区で3棟が空き家となっている。教員住宅については、小学校、中学校ともに利用がほとんどないため、この教員住宅についての有効活用、例えばUIターン者のための住宅など有効な利用について協議・検討を行いたいと考えている。
- この考え方についてはあくまでもたたき台・方向性であり、いただいたご意見を参考にして内部調整を図り、構想をまとめてまいりたい。なお、事業実施については、これまで次年度以降ということとしていたが、財源等の見直しを含めて、実施スケジュールの見直しも併せて行いたいと考えている。

《質疑・意見》

- 今説明をしたことについて、いつまでにこの地域協議会での意見を聞くのか。
 - ▷次回の協議会の日程にも関わるが、概ね8月か9月くらいには第2回目を予定しようと思っている。次回またご意見を聞かせてもらう、それから今日頂いたところで一定程度内部の調整を図り次回のところで次の段階のたたき台をお示しする。
- 一番大きな問題は匹見上公民館を保健センターに移転することだと思う。当時の執行部と議会も含めて皆で今の場所が最適であろうということで決まった。当時から保健センターはあったし利便性も変わっていないと思うが、住民の意見を聞いたのか。
 - ▷匹見上公民館を保健センターに移転するという点については、公民館から要望があった。さらに、バスで下校する生徒の見守りという点や、現在保健センターの利用がかなり少なく施設の活用という点でも公民館があつた場所にあるのは良いことではないかと思う。
- 匹見上公民館が保健センターに移転した場合、資料館が残るが誰が管理していくのか。
- 教員住宅の利用は無いと思う。売却した方が良く思う。
 - ▷教員住宅を建てる際に補助金を受けている。経過年数により処分できるかということがあがるが、他県の会計検査で空いたままの教員住宅を有効活用しなければならないと指示をしたということも確認している。別の方法での利用や売却についても検討していきたい。
 - また、保健センターについても補助金を受けて建てているが、確認したところ目的外利用の申請を行い、認められれば別の利用も可能である。
- 匹見上公民館があるということは、その地域の人にとっては良いことだと思う。それが無くなるということについては住民に説明をして意見を聞かなければいけないと思う。

【その他】

林野作業員について

- 匹見町時代から長年匹見の財産を守るということで今でも8名か9名造林班の作業員にずっと仕事をいただいているが、今年度いっぱい今のような雇用状態を解消すると聞いた。法律の問題として致し方ないという面もあるのかもしれないが、市としての方向について説明して欲しい。
 - ▷制度改正で会計年度任用職員となる関係で新たな雇用が難しい状況となっている。現在続けている林業に関する事業を無くしてはならないということで様々な検討を行っているが、具体的に説明できるところではない。方向性等がある程度決まったら説明をしたい。

- 作業員の方たちもこの地域を支えている貴重な人なので、この地域から離れるようなことになったらますます活気を失うこととなる。大きな問題として捉えて、この地域協議会に報告してもらわないといけない。

防犯灯の移管について

- 防犯灯の説明は以前の地域協議会で終わったのか。商工会が設置した水銀灯についての話が保留してあったと思うが。
 - ▷道路管理者が管理すべきもの等を区分けして、該当のところについては防犯灯として自治会に管理を移管するという事で進んでいる。今年度からの激変緩和措置としていたが、来年4月1日から3年間とした。

匹見町交流関係人口拡大事業について

- 今年度、総務省の補助事業としてアンダンテ21が実施主体となり、匹見地区集落ネットワーク圏を
対象として都市部との交流や生活の安心安全対策、移住の対策を中心とした「森と人の共生による匹見町交流・人口拡大事業」を実施することとなっている。